



本紙に掲載されている本会オンライン事業の画像は、本会理事長が撮影を許可した広報委員会によるものです。本会オンライン事業に関するコンテンツの複製、その利用等は、目的の如何および個人利用を問わず、本会理事長が許可した場合を除き一切禁止しております。



News Letter

No.62

一般社団法人日本老年歯科医学会 会報

2025年12月31日発行

【本号のトピックス】

認知症と向き合う研修会開催報告／第37回学術大会のご案内 #JSG26
広島支部・島根支部・山口支部合同セミナー開催報告／専門医活動レポート
研究発表における倫理審査の重要性と新たな運用方針について

特任委員会(認知症), 病院歯科委員会, 研修委員会主催オンラインLive研修会 認知症と向き合う研修会開催報告

病院歯科委員会委員長 大野友久

2025年10月15日に表題の研修会が完全オンラインで開催されました。国策として行われている歯科医師認知症対応力向上研修会は主に歯科医師会に運営委託されて開催されていますが、病院歯科に所属する歯科医療従事者はその機会に恵まれにくいこともあり、今回は病院歯科委員会も企画段階から加えていただきました。

まず大野から前座として、なぜ病院歯科勤務の歯科医療従事者に認知症を学ぶ機会が必要かをお話しし、次に今回の目玉である栗田主一先生（東京都健康長寿医療センター研究所 認知症未来社会創造センター センター長）に、認知症施策と認知症基本法で示される新しい認知症観、についてご講演いただきました。栗田先生は日本の認知症施策に深く関与されている先生で、認知症施策のこれまでの経緯や現状、問題点などについてわかりやすく解説いただきました。次に特任委員会委員長の枝広あや子先生から、歯科医療従事者に期待される認知症の人への支援、について、軽妙に、そしてご自身で作成したイラストを多数使って、たいへんわかりやすく解説いただきました。

当日は95人の視聴者にご参加いただきましたが、今後も病院歯科が認知症にどのように向き合うべきかを考える機会を作っていきたいと思いますので、みなさんと一緒に考えていきましょう。



栗田先生にわかりやすく解説いただきました



平野理事長、小野研修委員長も交えた討論の様子



第37回学術大会のご案内 ～たべるよろこび つづくしあわせ～ #JSG26

大会長 池邊一典
(大阪大学大学院歯学研究科有床義歯補綴学・高齢者歯科学講座教授)

このニュースレターが皆様のお手元に届く頃には、第37回学術大会まであと5か月ほどになっていることと思います。今回の大会は、「たべるよろこび つづくしあわせ」をテーマとし、大阪の地で開催いたします。交流協定締結10周年を迎えた European College of Gerodontology (ECG) と国際的な Joint Session を併催予定で、魅力あるプログラムを豊富にご用意しております。参加していただいた皆様が老年歯科医学の最新情報に接することができる充実した3日間になることと思います。

ぜひお誘い合わせのうえ会場にお越しください。

会 期：2026年6月12日(金)～14日(日)
会 場：大阪国際会議場(グランキューブ大阪)
〒530-0005 大阪市北区中之島5丁目3-51
TEL：06-4803-5555(代表)

<情報交換会について>

大阪を代表する学会場近くの会場で、老年歯科医学について語り合いながら親交を深めましょう！

日 程：2026年6月13日(土)
会 場：リーガロイヤルホテル大阪 山楽の間
<https://www.rihga.co.jp/osaka>

運営事務局：株式会社インターグループ内
日本老年歯科医学会第37回学術大会 運営事務局
〒531-0072 大阪市北区豊崎3-20-1
インターグループビル
TEL：06-6372-3053
FAX：06-6376-2362
E-mail：jsg37@intergroup.co.jp
学術大会ウェブサイト：
<https://jsg37.umin.jp>



◆演題募集について

募集期間：2025年11月17日(月)～
2026年1月16日(金)



広島支部・島根支部・山口支部合同セミナー開催報告

広島支部 吉川峰加
(広島大学大学院先端歯科補綴学)

2025年11月20日(木)18時半より、広島支部・島根支部・山口支部主催の合同セミナーが開催されました。延原 浩先生(元 県立広島病院歯科・口腔外科部長、現 メリィホスピタル歯科)より「周術期口腔機能管理は手術部位感染(SSI)を予防する：新たなエビデンス構築への挑戦」というタイトルでご講演を賜りました。SSI(Surgical Site Infection)は手術操作の及んだ部位に発生する感染を示し、最も高頻度かつ重篤な外科的合併症の一つです。基礎知識から先生のこれまでのさまざまな臨床研究結果、予防策としての口腔衛生管理の重要性や実際についてお話いただきました。参加者は58名(半数はZoom参加)となりました。活発なディスカッションも行われ、明日からの臨床に役立つたいへん有意義なセミナーとなりました。



延原先生を囲んで



関係者・スタッフの集合写真

専門医活動レポート

青山行彦先生

(静岡県・医療法人 Respect
浜松アクタワー青山歯科室)

1994年に出身地の浜松駅前のオフィスビルで開業して、31年が経過しました。

1996年からは、近在総合病院からの依頼で、院外歯科医師の立場で歯科訪問診療を開始しました。

その後、院内消化器外科医や耳鼻科医らとともに、院内 NST チームを立ち上げました。また、院外講師を招聘し、病院内職員に対して「多職種連携によるオーラルマネジメント研修」の企画運営などを経験しました。

現在では、リハビリテーション科の摂食嚥下カンファランスと、糖尿病の教育入院の歯科カリキュラム講義を毎月担当しています。

これらの活動を通じて多くの経験を積むことができ、老年歯科専門医取得にも寄与しました。

2024年からは、浜松市の健康増進施策である、「浜松ウエルネスプロジェクト」にも関与し、「予防・健康都市」の実現のために、市民の健康寿命の延伸と地域ウエルネスエコシステムの構築に向かって、微力ながら奮闘しています。



病院エントランスにて



院内オーラルマネジメント研修

芦田貴司先生

(兵庫県・芦田歯科医院)

私の地域においても高齢化は進行しており、多職種との連携を図る目的で「3つの若葉を育む会」という組織があります。2015年に始まった医療・介護・福祉との連携組織ですが、2025年問題に備えて顔の見える勉強会を2か月に1回開催し、現在でも継続して行っています。

そのなかで、私は日本老年歯科医学会の専門医として摂食嚥下機能を確認する目的で、精密検査による嚥下評価を行い、「食べる」ことに関与しています。今までの歯科医療は、痛みなく食物を咀嚼することのみ重点が置かれていましたが、現在では「安全に嚥下できる」にまで歯科医療の守備範囲が広がり、やりがいを感じています。

昨今では多くの歯科医院が歯科訪問診療を行っていますが、嚥下評価まで行える歯科医師がまだまだ不足していると感じます。今後、本学会がこの分野でリーダーシップを取っていただけることを期待していますし、私も尽力していきたいと考えています。



嚥下内視鏡を用いて嚥下評価を行っている様子



日本老年歯科医学会 会員の皆様へ

—研究発表における倫理審査の重要性と新たな運用方針について—

倫理検討委員会委員長 金澤 学

近年、医療・歯科医療分野の研究倫理に対する社会的関心が一層高まっており、研究者に求められる倫理的配慮と説明責任は、かつてないほど重要になっています。日本老年歯科医学会においても、学術的信頼性と社会的信用を確保するため、倫理審査の遵守を徹底する必要があります。

■ 2027年度(第38回大会)からの新しい運用方針

倫理教育の普及と意識向上を目的として、2027年度第38回日本老年歯科医学会学術大会から、以下の新たなルールを導入いたします。

発表者・共同発表者のうち少なくとも1名は、研究倫理講習の受講証を提出することを義務化します。

これは、研究者が倫理的な視点を共有し、適切な倫理的配慮のもとで研究を遂行・発表することを目的としたものです。

受講証としては、各大学・研究機関で実施されている講習や、eラーニング(例:日本歯科医師会、日本医師会、CITI Japan、日本学術振興会など)の修了証を有効とします。

■ 学会発表における倫理審査の必要性

学会での発表内容が「臨床研究」に該当する場合は、所属機関の倫理審査委員会等による審査・承認を得たうえで発表を行うことが必須です。不明な場合は以下のフローチャートをご参照ください。

<https://www.gerodontology.jp/committee/001736.shtml>



学会として、倫理的に健全で社会的に信頼される研究・発表活動を推進することが、老年歯科医療の発展と患者の尊厳の保護につながると確信しております。

会員の皆様におかれましては、今後の研究・発表に際し、倫理審査の取得および倫理教育の受講にご協力をお願いいたします。



編集後記

2026年は干支でいうと丙午(ひのえうま)にあたり、新たな挑戦や前向きな歩みが期待される年です。第37回学術大会では、ヨーロッパ老年歯科医学会との合同シンポジウムも予定されており、国際的な視点からの意見交換が行われる貴重な機会となります。熱い学会をさらに熱く盛り上げるためにも、ぜひ多くの方の学会参加をお願いいたします。大阪府立国際会議場(グランキューブ大阪)にて皆様とお会いできることを楽しみにしております。(釘宮嘉浩)



発行人 平野浩彦
編集 (一社)日本老年歯科医学会広報委員会
事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9
駒込TSビル (一財)口腔保健協会内
電話 03-3947-8891 FAX 03-3947-8341
E-mail jsg@kokuhoken.or.jp